

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	I V Y大分高度コンピュータ専門学校
設置者名	学校法人 善広学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
工業専門課程	モバイルシステム クリエイト学科	夜・通信	1568時間 46単位	240時間 9単位	
	インターネット システム学科	夜・通信	728時間 38単位	240時間 9単位	
	3DCAD クリエイト学科	夜・通信	1750時間 73単位	240時間 9単位	
	情報処理科	夜・通信	1861時間 65単位	160時間 6単位	
	情報マルチメディア学科	夜・通信	4958時間 180単位	240時間 9単位	
(備考) 情報マルチメディア学科は募集停止のため、3年次生のみ在籍 インターネットシステム学科・3DCAD クリエイト学科は、開設2年目で1, 2年次生が在籍					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

IVY のホームページ https://www.ivy.ac.jp/?page_id=7693

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	I V Y大分高度コンピュータ専門学校
設置者名	学校法人 善広学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

希望者には学校備付けの役員名簿を閲覧させる

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	高等学校 校長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	教育的助言
非常勤	金融機関 支店長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	運営的助言
(備考)			

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	I V Y大分高度コンピュータ専門学校
設置者名	学校法人 善広学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
工業専門課程	モバイルシステム クリエイト学科	夜・通信	1568時間 46単位	240時間 9単位	
	インターネット システム学科	夜・通信	728時間 38単位	240時間 9単位	
	3DCAD クリエイト学科	夜・通信	1750時間 73単位	240時間 9単位	
	情報処理科	夜・通信	1861時間 65単位	160時間 6単位	
	情報マルチメディア学科	夜・通信	4958時間 180単位	240時間 9単位	
(備考) 情報マルチメディア学科は募集停止のため、3年次生のみ在籍 インターネットシステム学科・3DCAD クリエイト学科は、開設2年目で1, 2年次生が在籍					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

IVY のホームページ https://www.ivy.ac.jp/?page_id=7693

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	I V Y大分高度コンピュータ専門学校
設置者名	学校法人 善広学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

希望者には学校備付けの役員名簿を閲覧させる

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	高等学校 校長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	教育的助言
非常勤	金融機関 支店長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	運営的助言
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	IVY 大分高度コンピュータ専門学校
設置者名	学校法人 善広学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p> <p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>○教育課程(カリキュラム)の編成について 実施する授業科目、及びその講座内容については、各学科職員会議にて、講座の実施状況や学生アンケートに基づき改善検討を行い、新年度教育課程の策定を行う。策定された教育課程に基づいて授業計画を立てる。一部学科については、「教育課程編成委員会」を実施し、その討議内容に基づいて、教育課程の策定を行う。</p> <p>授業計画書(シラバス)については、「IVYシラバス作成ガイドライン」に従って、各教科担当教員が作成を行う。様式及び記載項目(科目名、時間数、科目概要、学習到達目標、講義計画、使用教材、実習環境、目標資格、成績評価方法)、表現方法などを統一している。</p> <p>また、授業計画書(シラバス)は、年度初めまでには、学生に対してホームページ上で公表する。</p>	
<p>授業計画書の公表方法</p>	<p>IVYのホームページで公開 https://www.ivy.ac.jp</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p> <p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>○授業科目に対する成績評価 科目毎の評価方法は、授業計画書(シラバス)に記載した評価方法に基づいて行う。また、評価については、授業科目の「到達目標」に応じた総合評価とする。</p> <p>講義・演習科目については、講座終了時に期末試験を実施する。その試験結果及び学修状況(履修状況やレポート提出状況)等に基づいて評価を行う。</p> <p>また、実習実技科目においては、実習成果物及びその提出状況・実技試験及び学修状況などのいずれか、又はこれらを総合的にみて評価を行う。実習成果物で未提出のものがあれば、評価はしない。</p> <p>評価については、特に定めがない場合、100点を満点として、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(60点未満)の区分により示し、S・A・B・Cを合格、Dを不合格とする。</p> <p>○履修認定について 各授業科目の授業時間数の80%以上の出席がなければ認定はしない。80%以上の出席を満たした者で、成績評価判定で合格した者に対し、履修認定を行う。</p> <p>尚、補習等において追加課題などの措置を実施し、条件を満たした時点で評価・履修認定を行う。また、補習等を実施しても、条件を満たさない場合は不合格とし、履修認定はされない。</p> <p>この内容については、学生便覧に記載するとともに、入学時のガイダンスにて説明を行う。</p>	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	

<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>成績評価による学業結果を総合的に判断する指標として、GPA (Grade Point Average : 成績指標値) を用いる。</p> <p>GPAは、成績評価のうち、Sは4点、Aは3点、Bは2点、Cは1点、Dは0点 をそれぞれ評価点として与え、各授業科目の評価点にその単位数を乗じて得た積の合計を、履修科目の総単位数で除して算出する。</p> <p>GPAの学生及び保証人への通知は、学期GPA及び通算GPAを各学期における成績と併せて通知する。ただし、学生が保証人の同意を得て保証人への成績通知を不要とする場合には、この限りでない。本学卒業時の通算 GPA は、成績原簿に記録するものとする。</p> <p>また、同様の内容を学生便覧に記載し、学生への説明会を行うとともにホームページにて公開する。</p>	
客観的な指標の算出方法の公表方法	学生便覧に記載するとともに、ホームページで公開する。 https://www.ivy.ac.jp
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>I V Yの教育目標は学生便覧にも記載しているように、次のようになっている。</p> <p>○教育目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 専門的最高の知識・技術を身につけること。 2. 専門的資格を取得すること。 3. 希望にかなった就職をすること。 4. 社会人としてのマナーを身につけること。 <p>尚、専門的技術については、教育課程を展開する中で達成できるように指導し、社会性の側面については、日々の生活の中で達成できるように指導している。</p> <p>以上のことを踏まえた卒業要件を設定し、卒業判定については以下のように規定を定め適切に実施している。</p> <p>○卒業認定要件</p> <p>学則に定めるように、以下の条件を満たした者を課程が修了したとして卒業認定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①修業年限以上在学していること。 ②出席率が80%以上であること。 ③3年課程においては2550時間以上の授業を受講し、93単位以上を取得すること。 ④2年課程においては1700時間以上の授業を受講し、62単位以上を取得すること。 ⑤所定の納付金が納められていること。 <p>○卒業認定手続き</p> <p>担任が卒業要件の充足状況を確認し、卒業判定会議において協議し、学校長が判定を行う。卒業要件を満たさない者については、補習等により要件が満たされた時点で学校長が再判定を行う。</p> <p>○教育目標及び卒業認定基準の公表</p> <p>学生便覧に記載し、全学生に配布する。また、入学時にガイダンスにて、全学生に対して説明を行う。</p>	
卒業の認定に関する方針の公表方法	学生便覧と I V Yのホームページ https://www.ivy.ac.jp

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	I V Y大分高度コンピュータ専門学校
設置者名	学校法人 善広学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	希望者には書面をもって配付する
収支計算書又は損益計算書	https://www.ivy.ac.jp/?page_id=6585
財産目録	希望者には書面をもって配付する
事業報告書	希望者には書面をもって配付する
監事による監査報告（書）	希望者には書面をもって配付する

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

<モバイルシステムクリエイト学科>

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		専門課程	モバイルシステムクリエイト学科	○			
修業 年限	昼 夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼 間	2550 単位時間 ／93 単位	345 単位時間/ 20 単位	875 単位時間/ 38 単位	1333 単位時間/ 35 単位	0 単位時間/ 0 単位	436 単位時間/ 9 単位
			2989 単位時間／102 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60人		43人	0人	5人	3人	8人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）職業実践専門課程として認定されている学科なので、「教育課程編成委員会」の了解に基づいて教育課程を編成する。1年次は、IT基礎教育を行う。その中で、情報処理技術者の国家試験を受験する。2年次以降は、実践力を養うために、グループ学習を利用したアクティブラーニングを実施する。これにより、コミュニケーション力とプログラミング力をアップする。3年次は、IT業界で活躍されている講師によるモバイルアプリ開発や大分大学との連携によるAI学習など新しい技術の学習を行う。最後に、卒業研究として、グループでの作品を作り、発表会を行う。

成績評価の基準・方法

（概要）①出席時間数が、授業時数の80%未満は不合格とする。
②講義・演習を中心とする科目では、各科目の終了時に行う期末試験や資格試験などの結果を考慮して5段階(S, A, B, C, D)評価を行う。尚、S～Cは合格、Dは不合格となる。実習を中心とする科目では、課題の提出による評価を行う。内容が不十分な場合は、再提出となり、すべての課題が提出された段階で、S, A, B, C（合格）の評価がされる。未提出の課題があった場合は、D（不合格）となる。
③不合格の場合は、補習などにより、条件を満たした時点で、合格が認定され、単位が取得できる。

卒業・進級の認定基準

（概要）卒業認定基準：
①3年以上の年限在学し、全日の出席率が80%以上あること。
②受講授業時間数が2550時間以上で、取得単位数が93単位以上であること。
③納付金を完納すること。
以上の条件が満たされた者は、卒業判定会議にて、学校長が卒業を認定し、卒業証書と専門士の称号を授与する。
進級基準：
①全日の出席率が80%以上であること。
②年間取得単位数が31単位以上であること。
以上の2点を満たした者は進級できる。
尚、条件が満たされない場合にも、考慮すべき事情などがある場合には、職員会議などで審議し、進級を認める場合もある。

学修支援等

（概要）
○クラス担任制
各クラスに1名、担任を配置し、学生の出席状況の把握、修学状況の把握、及び修学支援、進路支援等を個別で行っている。
○個別面談の実施。
出席状況や学修状況を常に把握しながら、問題となりそうな学生については、個別の面談を実施し、早めの対応を行う。
尚、それでも改善が認められない場合は、保護者を含めた3者面談を実施する。
また、中途退学などの懸念がある場合は、スクールカウンセラーも交えた精神的なサポートを行う。

○経済的支援については次のようなメニューが準備されている。

- ・A0 入学者支援：入学願書提出時の申請により、毎年、授業料を 10 万円免除。総額 30 万円。
- ・特別奨学生支援：筆記試験合格者を対象に毎年、授業料を 10 万円免除。総額 30 万円。
- ・指定校特待生 A：入学願書提出時の申請により、毎年、授業料を 10 万円免除。総額 30 万円。
- ・親子・兄弟姉妹補助金制度：親や兄弟姉妹に IVY 卒業生（又は在學生）がいる場合、入学願書提出時に申請。2 年次学費から 15 万円免除。
- ・大学・短大新卒者補助金制度：大学又は短大の本年度卒業生（又は見込みの者）、入学願書提出時に申請、1 年次学費から 10 万円免除。
- ・有資格者補助金制度：基本情報技術者・IT パスポートの資格取得者を対象に。入学するまでに申請。学費一部免除
- ・IVY 経済的支援制度：非課税世帯（又は、同等程度の世帯）を対象に学費一部免除。入学時までに申請（ただし、人数制限あり）。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
15 人 (100%)	0 人 (0%)	15 人 (100%)	0 人 (0%)
（主な就職、業界等） 県内外の IT 企業、システム開発会社、システムインテグレータ			
（就職指導内容） マナー講座、県内企業との交流会、保護者説明会、就職対応 3 者面談会、受験時面接指導、キャリア教育（志望動機、履歴書）、就職対策（SPI、一般常識）、就職報告会			
（主な学修成果（資格・検定等）） 基本情報技術者試験、応用情報技術者試験、情報処理安全確保支援士、情報処理技術者能力認定試験（サーティファイ）、オラクルマスター			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
42 人	0 人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） 随時、担任による 2 者面談、3 者面談により本人及び保護者の意思を確認。退学後の進路についての確認。スクールカウンセラーの活用。		

<インターネットシステム学科>

分野	課程名	学科名			専門士	高度専門士	
工業	専門課程	インターネットシステム学科			○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼 間	2550 単位時間 ／93 単位	1382 単位時間/ 80 単位	1163 単位時間/ 48 単位	677 単位時間/ 18 単位	0 単位時間/ 0 単位	746 単位時間/ 15 単位
			3968 単位時間／161 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40		12 人	0 人	3 人	3 人	6 人	

(※現在 1, 2 年生が在学中)

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 3年間を通じて、ICT技術者の育成を目指す学科である。1年次前半は、総務省の工事担任者DD第2種に基づく教育課程を実施する。後半は、情報セキュリティマネジメント試験を目標に授業を展開する。2年次は、IT技術を中心に学習する教育課程を実施する。その中で情報処理技術試験を受験する。3年次は、IoTやAIを取り入れた、実務教育を行う。最後に、卒業研究として、グループでの作品を作り、発表会を行う。
成績評価の基準・方法
(概要) ①出席時間数が、授業時数の80%未満は不合格とする。 ②講義・演習を中心とする科目では、各科目の終了時に行う期末試験や資格試験などの結果を考慮して5段階(S, A, B, C, D)評価を行う。尚、S~Cは合格、Dは不合格となる。実習を中心とする科目では、課題の提出による評価を行う。内容が不十分な場合は、再提出となり、すべての課題が提出された段階で、S, A, B, C (合格) の評価がされる。未提出の課題があった場合は、D (不合格) となる。 ③不合格の場合は、補修などにより、条件を満たした時点で、合格が認定され、単位が取得できる。
卒業・進級の認定基準
(概要) 卒業認定基準： ①3年以上の年限在学し、全日の出席率が80%以上あること。 ②受講授業時間数が2550時間以上で、取得単位数が93単位以上であること。 ③納付金を完納すること。 以上の条件が満たされた者は、卒業判定会議にて、学校長が卒業を認定し、卒業証書と専門士の称号を授与する。 進級基準： ①全日の出席率が80%以上であること。 ②年間取得単位数が31単位以上であること。 以上の2点を満たした者は進級できる。 尚、条件が満たされない場合にも、考慮すべき事情などがある場合には、職員会議などで審議し、進級を認める場合もある。
学修支援等
○クラス担任制 各クラスに1名、担任を配置し、学生の出席状況の把握、修学状況の把握、及び修学支援、進路支援等を個別で行っている。 ○個別面談の実施。 出席状況や学修状況を常に把握しながら、問題となりそうな学生については、個別の面談を実施し、早めの対応を行う。 尚、それでも改善が認められない場合は、保護者を含めた3者面談を実施する。 また、中途退学などの懸念がある場合は、スクールカウンセラーも交えた精神的なサポートを行う。 ○経済的支援については次のようなメニューが準備されている。 ・A0入学者支援：入学願書提出時の申請により、毎年、授業料を10万円免除。総額30万円。

- ・特別奨学生支援：筆記試験合格者を対象に毎年、授業料を10万円免除。総額30万円。
- ・指定校特待生A：入学願書提出時の申請により、毎年、授業料を10万円免除。総額30万円。
- ・親子・兄弟姉妹補助金制度：親や兄弟姉妹にIVY卒業生（又は在学生）がいる場合、入学願書提出時に申請。2年次学費から15万円免除。
- ・大学・短大新卒者補助金制度：大学又は短大の本年度卒業生（又は見込みの者）、入学願書提出時に申請、1年次学費から10万円免除。
- ・有資格者補助金制度：基本情報技術者・ITパスポートの資格取得者を対象に。入学するまでに申請。学費一部免除
- ・IVY経済的支援制度：非課税世帯（又は、同等程度の世帯）を対象に学費一部免除。入学時までに申請（ただし、人数制限あり）。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0人 (100%)	0人 (%)	0人 (%)	0人 (%)
（主な就職、業界等）			
（就職指導内容）			
（主な学修成果（資格・検定等）） 工事担任者DD第1種、工事担任者DD第2種、ITパスポート、基本情報技術者試験 応用情報技術者試験、情報処理安全確保支援士、情報セキュリティマネジメント試験、 .com Master Basic、.com Master ADVANCE			
（備考）（任意記載事項） 学科開設2年目なので、卒業生はいません。			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
7人	1人	14.3%
（中途退学の主な理由） 病気		
（中退防止・中退者支援のための取組） 随時、担任による2者面談、3者面談により本人及び保護者の意思を確認。退学後の進路についての確認。スクールカウンセラーの活用。		

< 3DCADクリエイト学科 >

分野	課程名	学科名			専門士	高度専門士	
工業	専門課程	3DCADクリエイト学科			○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼 間	2550 単位時間 ／93 単位	831 単位時間/ 44 単位	1117 単位時間/ 44 単位	354 単位時間/ 10 単位	0 単位時間/ 0 単位	351 単位時間/ 7 単位
			2653 単位時間／105 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40 人		24 人	0 人	4 人	4 人	8 人	

(※現在 1, 2 年生が在学中)

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 1年次は、コンピュータの基礎知識をしっかりと学びます。CADオペレーションを通し、設計・製図の基礎を身につけます。2年次は、CADオペレーションの技術が試される資格試験(国家検定)への挑戦や、最新の3DCAD(建築・機械)の技術を習得します。3年次は、建築・機械・設備の各分野の設計技法の学習。3Dプリンタ・レーザーカッター・VR(バーチャルリアリティ)を活用した制作実習を行い、実際の仕事で使う技術を習得します。
成績評価の基準・方法
(概要) ①出席時間数が、授業時数の80%未満は不合格とする。 ②講義・演習を中心とする科目では、各科目の終了時に行う期末試験や資格試験などの結果を考慮して5段階(S, A, B, C, D)評価を行う。尚、S~Cは合格、Dは不合格となる。実習を中心とする授業では、課題の提出による評価を行う。内容が不十分な場合は、再提出となり、すべての課題が提出された段階で、S, A, B, C(合格)の評価がされる。未提出の課題があった場合は、D(不合格)となる。 ③不合格の場合は、補修などにより、条件を満たした時点で、合格が認定され、単位が取得できる。
卒業・進級の認定基準
(概要) 卒業認定基準： ①3年以上の年限在学し、全日の出席率が80%以上あること。 ②受講授業時間数が2550時間以上で、取得単位数が93単位以上であること。 ③納付金を完納すること。 以上の条件が満たされた者は、卒業判定会議にて、学校長が卒業を認定し、卒業証書と専門士の称号を授与する。 進級基準： ①全日の出席率が80%以上であること。 ②年間取得単位数が31単位以上であること。 以上の2点を満たした者は進級できる。 尚、条件が満たされない場合にも、考慮すべき事情などがある場合には、職員会議などで審議し、進級を認める場合もある。
学修支援等
○クラス担任制 各クラスに1名、担任を配置し、学生の出席状況の把握、修学状況の把握、及び修学支援、進路支援等を個別で行っている。 ○個別面談の実施。 出席状況や学修状況を常に把握しながら、問題となりそうな学生については、個別の面談を実施し、早めの対応を行う。 尚、それでも改善が認められない場合は、保護者を含めた3者面談を実施する。 また、中途退学などの懸念がある場合は、スクールカウンセラーも交えた精神的なサポートを行う。 ○経済的支援については次のようなメニューが準備されている。 ・A0入学者支援：入学願書提出時の申請により、毎年、授業料を10万円免除。総額30万円。

- ・特別奨学生支援：筆記試験合格者を対象に毎年、授業料を10万円免除。総額30万円。
- ・指定校特待生A：入学願書提出時の申請により、毎年、授業料を10万円免除。総額30万円。
- ・親子・兄弟姉妹補助金制度：親や兄弟姉妹にIVY卒業生（又は在学生）がいる場合、入学願書提出時に申請。2年次学費から15万円免除。
- ・大学・短大新卒者補助金制度：大学又は短大の本年度卒業生（又は見込みの者）、入学願書提出時に申請、1年次学費から10万円免除。
- ・有資格者補助金制度：基本情報技術者・ITパスポートの資格取得者を対象に。入学するまでに申請。学費一部免除
- ・IVY経済的支援制度：非課税世帯（又は、同等程度の世帯）を対象に学費一部免除。入学時までに申請（ただし、人数制限あり）。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0人 (100%)	0人 (%)	0人 (%)	0人 (%)
（主な就職、業界等）			
（就職指導内容）			
（主な学修成果（資格・検定等）） CAD利用技術者試験2級、1級、機械設計技術者試験3級、技能検定 機械・プラント製図3級、ITパスポート			
（備考）（任意記載事項） 学科開設2年目なので、卒業生はいません。			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
16人	2人	12.5%
（中途退学の主な理由） 進路変更、病気		
（中退防止・中退者支援のための取組） 随時、担任による2者面談、3者面談により本人及び保護者の意思を確認。退学後の進路についての確認。スクールカウンセラーの活用。		

< 情報処理学科 >

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		専門課程	情報処理学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼 間	1700 単位時間 ／62 単位	540 単位時間/ 31 単位	1400 単位時間/ 59 単位	1088 単位時間/ 31 単位	0 単位時間/ 0 単位	972 単位時間/ 26 単位
			4000 単位時間／147 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40 人		33 人	0 人	5 人	3 人	8 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）1年次は、基礎教育を行う。その中で、情報処理技術者の国家試験を受験する。2年次は、実践力を養うために、グループ学習を利用したアクティブラーニングを実施する。これにより、コミュニケーション力とプログラミング力をアップする。最後に、卒業研究として、グループでの作品を作り、発表会を行う。
成績評価の基準・方法
（概要）①出席時間数が、授業時数の80%未満は不合格とする。 ②講義・演習を中心とする科目では、各科目の終了時に行う期末試験や資格試験などの結果を考慮して5段階(S, A, B, C, D)評価を行う。尚、S～Cは合格、Dは不合格となる。実習を中心とする授業では、課題の提出による評価を行う。内容が不十分な場合は、再提出となり、すべての課題が提出された段階で、S, A, B, C（合格）の評価がされる。未提出の課題があった場合は、D（不合格）となる。 ③不合格の場合は、補習などにより、条件を満たした時点で、合格が認定され、単位が取得できる。
卒業・進級の認定基準
（概要）卒業認定基準： ①2年以上の年限在学し、全日の出席率が80%以上あること。 ②受講授業時間数が1700時間以上で、取得単位数が62単位以上であること。 ③納付金を完納すること。 以上の条件が満たされた者は、卒業判定会議にて、学校長が卒業を認定し、卒業証書と専門士の称号を授与する。 進級基準： ①全日の出席率が80%以上であること。 ②年間取得単位数が31単位以上であること。 以上の2点を満たした者は進級できる。 尚、条件が満たされない場合にも、考慮すべき事情などがある場合には、職員会議などで審議し、進級を認める場合もある。
学修支援等
○クラス担任制 各クラスに1名、担任を配置し、学生の出席状況の把握、修学状況の把握、及び修学支援、進路支援等を個別で行っている。 ○個別面談の実施。 出席状況や学修状況を常に把握しながら、問題となりそうな学生については、個別の面談を実施し、早めの対応を行う。 尚、それでも改善が認められない場合は、保護者を含めた3者面談を実施する。 また、中途退学などの懸念がある場合は、スクールカウンセラーも交えた精神的なサポートを行う。 ○経済的支援については次のようなメニューが準備されている。 ・A0 入学者支援：入学願書提出時の申請により、毎年、授業料を10万円免除。総額20万円。 ・特別奨学生支援：筆記試験合格者を対象に毎年、授業料を10万円免除。総額20万円。 ・指定校特待生B：入学願書提出時の申請により、毎年、授業料を10万円免除。総額20万円。

- ・親子・兄弟姉妹補助金制度：親や兄弟姉妹に IVY 卒業生（又は在学生）がいる場合、入学願書提出時に申請。2 年次学費から 15 万円免除。
- ・大学・短大新卒者補助金制度：大学又は短大の本年度卒業生（又は見込みの者）、入学願書提出時に申請、1 年次学費から 10 万円免除。
- ・有資格者補助金制度：基本情報技術者・IT パスポートの資格取得者を対象に。入学するまでに申請。学費一部免除
- ・IVY 経済的支援制度：非課税世帯（又は、同等程度の世帯）を対象に学費一部免除。入学時までに申請（ただし、人数制限あり）。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
15 人 (100%)	0 人 (0%)	15 人 (100%)	0 人 (0%)
（主な就職、業界等） 県内外の IT 企業、システム開発会社、システムインテグレータ			
（就職指導内容） マナー講座、県内企業との交流会、保護者説明会、就職対応 3 者面談会、受験時面接指導、キャリア教育（志望動機、履歴書）、就職対策（SPI、一般常識）、就職報告会			
（主な学修成果（資格・検定等）） 基本情報技術者試験、応用情報技術者試験、情報処理安全確保支援士、情報処理技術者能力認定試験（サーティファイ）、オラクルマスター			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
38 人	2 人	5.3%
（中途退学の主な理由） 進路変更や家庭事情		
（中退防止・中退者支援のための取組） 随時、担任による 2 者面談、3 者面談により本人及び保護者の意思を確認。退学後の進路についての確認。スクールカウンセラーの活用。		

<情報マルチメディア学科>

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	専門課程	情報マルチメディア学科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼 間	2550 単位時間 ／93 単位	2324 単位時間/ 88 単位	1649 単位時間/ 63 単位	2728 単位時間/ 96 単位	0 単位時間/ 0 単位	1690 単位時間/ 50 単位
			8391 単位時間／297 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60 人		19 人	0 人	5 人	9 人	14 人	

(※現在 3年生が在学中)

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>(概要) この学科は、1年次前半は、共通授業として、IT 技術の基礎および、ネットワーク、デザイン、CAD の基礎学習を行います。その中で、自分の目指すべき職種 (専攻) を決め、1年次後期より、情報ネットワーク専攻、Web デザイン専攻、コンピュータ設計専攻の3つの専攻コースに分かれて、各々の専門を学修する教育課程になっています。</p> <p>情報ネットワーク専攻コースでは、総務省工事担任者試験 DD1 種やシスコ技術者認定などのネットワークのスペシャリストを育成する教育課程になっています。また、IT 技術も学習することから、情報処理技術者も目指すことができます。3年次には IoT や AI などの最新技術まで学ぶことができます。</p> <p>コンピュータ設計専攻コースでは CAD オペレーションを通し、設計・製図の基礎を身につけ、資格試験 (国家検定) への挑戦や最新の 3DCAD (建築・機械) の技術を習得します。また、3D プリンタ・レーザーカッター・VR を活用した制作実習を行い、実際の仕事で使う技術を習得します。</p> <p>Web デザイン専攻コースでは、まず、デザインの基礎と制作ソフトのスキルを身につけ、2年次で HTML・CSS の習得、3DCG、広告、写真表現を学習します。3年次では Web サイトやパッケージのデザインをコンセプトから作成し、デザイナーとしての実践力を身につけます。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要) ①出席時間数が、授業時数の 80%未満は不合格とする。</p> <p>②講義・演習を中心とする科目では、各科目の終了時に行う期末試験や資格試験などの結果を考慮して 5 段階 (S, A, B, C, D) 評価を行う。尚、S~C は合格、D は不合格となる。実習を中心とする授業では、課題の提出による評価を行う。内容が不十分な場合は、再提出となり、すべての課題が提出された段階で、S, A, B, C (合格) の評価がされる。未提出の課題があった場合は、D (不合格) となる。</p> <p>③不合格の場合は、補修などにより、条件を満たした時点で、合格が認定され、単位が取得できる。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要) 卒業認定基準：</p> <p>①3年以上の年限在学し、全日の出席率が 80%以上あること。</p> <p>②受講授業時間数が 2550 時間以上で、取得単位数が 93 単位以上であること。</p> <p>③納付金を完納すること。</p> <p>以上の条件が満たされた者は、卒業判定会議にて、学校長が卒業を認定し、卒業証書と専門士の称号を授与する。</p> <p>進級基準：</p> <p>①全日の出席率が 80%以上であること。</p> <p>②年間取得単位数が 31 単位以上であること。</p> <p>以上の 2 点を満たした者は進級できる。</p> <p>尚、条件が満たされない場合にも、考慮すべき事情などがある場合には、職員会議などで審議し、進級を認める場合もある。</p>
学修支援等

○クラス担任制

各クラスに1名、担任を配置し、学生の出席状況の把握、修学状況の把握、及び修学支援、進路支援等を個別で行っている。

○個別面談の実施。

出席状況や学修状況を常に把握しながら、問題となりそうな学生については、個別の面談を実施し、早めの対応を行う。

尚、それでも改善が認められない場合は、保護者を含めた3者面談を実施する。

また、中途退学などの懸念がある場合は、スクールカウンセラーも交えた精神的なサポートを行う。

○経済的支援については次のようなメニューが準備されている。

- ・A0 入学者支援：入学願書提出時の申請により、毎年、授業料を10万円免除。総額30万円。
- ・特別奨学生支援：筆記試験合格者を対象に毎年、授業料を10万円免除。総額30万円。
- ・指定校特待生A：入学願書提出時の申請により、毎年、授業料を10万円免除。総額30万円。
- ・親子・兄弟姉妹補助金制度：親や兄弟姉妹にIVY卒業生（又は在學生）がいる場合、入学願書提出時に申請。2年次学費から15万円免除。
- ・大学・短大新卒者補助金制度：大学又は短大の本年度卒業生（又は見込みの者）、入学願書提出時に申請、1年次学費から10万円免除。
- ・有資格者補助金制度：基本情報技術者・ITパスポートの資格取得者を対象に。入学するまでに申請。学費一部免除
- ・IVY 経済的支援制度：非課税世帯（又は、同等程度の世帯）を対象に学費一部免除。入学時までに申請（ただし、人数制限あり）。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
30人 (100%)	0人 (0%)	30人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職 通信系会社、セキュリティ会社、IT関連企業、CAD関連会社、デザイン関連企業)			
(就職指導内容) マナー講座、県内企業との交流会、保護者説明会、就職対応3者面談会、受験時面接指導、キャリア教育(志望動機、履歴書)、就職対策(SPI、一般常識)、就職報告会、作文指導			
(主な学修成果(資格・検定等)) 工事担任者試験DD2種、DD1種、基本情報技術者試験、応用情報技術者試験、CCENT、電気工事士、MOS WORD、MOS EXCEL、CG検定、CAD利用技術者試験2級、1級、技能検定			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状

年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
49人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 随時、担任による2者面談、3者面談により本人及び保護者の意思を確認。退学後の進路についての確認。スクールカウンセラーの活用。		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
モバイルシステムクリエイト学科	150,000 円	600,000 円	380,000 円	
情報処理科	150,000 円	600,000 円	380,000 円	
インターネットシステム学科	150,000 円	600,000 円	380,000 円	
3DCADクリエイト学科	150,000 円	600,000 円	380,000 円	
情報マルチメディア学科	150,000 円	600,000 円	380,000 円	
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) IVYのホームページ https://www.ivy.ac.jp		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制)		
<p>構成 学校関係者評価委員は、業界団体・学術関係・企業委員・卒業生からの5名で構成する。</p> <p>評価項目 学校関係者評価委員会において、学校の教育方針や人材育成方針の育成方針の確認を行い、学生状況の説明や様々な取り組み事項の説明と自己点検評価の説明をした後、各委員より、学校評価を提出してもらう。</p> <p>評価結果の活用 項目毎に改善策を検討し反映すると共に、翌年度の目標設定や具体的取組みに反映する。</p>		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
公益財団法人 ハイパーネットワーク社会研究所 理事	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日	有識者 (業界団体)
国立大学法人 大分大学工学部 助教	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日	有識者 (学術関係)
株式会社 ザイナス 代表取締役社長	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日	企業委員
株式会社 アーネット 代表取締役社長	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日	企業委員・卒業生
アンプリファイ 代表	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日	企業委員・卒業生
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) IVYのホームページ https://www.ivy.ac.jp		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) IVYのホームページ https://www.ivy.ac.jp
